

なぜ平野区には博物館がたくさんあるのか？

63期生

I テーマ設定の理由

担任の先生の「平野区にはたくさん博物館があります」とおっしゃっていたことに興味を持ち、実際にフィールドワークで行った平野区的全興寺内にある駄菓子屋さん博物館や音の博物館を見学し、どちらの博物館でも、今では見ることの出来ない貴重な資料を見ることが出来た。このことがきっかけで、平野区の博物館に興味を持ち、博物館が平野区に多い理由を調べてみたいと思った。

II 研究方法

可能な限りそれぞれの博物館を訪ねていき、博物館の持ち主の方々に直接話を伺って、それぞれの博物館のみどころや、疑問に思う点を聞く。

III 研究内容

1. 博物館の説明

(1) 駄菓子屋さん博物館 (全興寺内にある)

「全興寺」は聖徳太子によって薬師堂が建てられ、そこから町が作られたと伝えられた寺である。

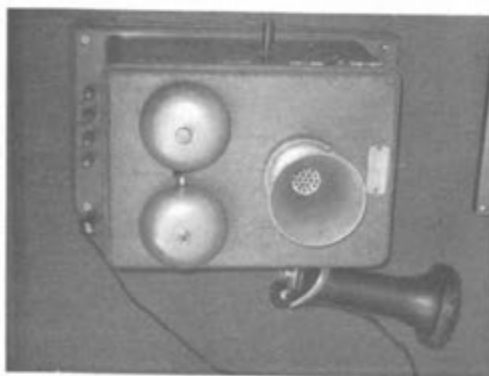
境内の一角にある駄菓子屋さん博物館には昭和20～30年代の駄菓子屋さんに並んでいたおもちゃ (写真①) が展示されている。また、昭和の初期に使われていた冷蔵庫・洗濯機・テレビもあり、昔の人々の知恵に感心させられる。

(2) 音の博物館 (全興寺内にある)

この博物館は、駄菓子屋さん博物館の横にあり、下の写真②の機械で平野区にちなんだ様々な音を聞くことが出来る。



写真①
(昭和20～30年代のグリコの空き箱)



写真②
(音の博物館にあった昔の電話)

(3) 新聞屋さん博物館 (全興寺の横にある)

この博物館では、昭和初期の有名なニュースが載っている新聞がある他、当時の昭和の雑誌についていた付録 (すごろくなど) も展示されている。

(4) へっついさん博物館

この博物館は、普段は食堂を営んでいる家の玄関先にあった。かまどの中には (写真④) 米を炊いた跡や、料理に用いた跡もあり、昔本当に使われていたということが伺える。



写真③ (当時使われていた看板)



写真④ (かまど)

(5) パズル茶屋

ここでは知恵の輪やルービックキューブの中でも珍しい木で作られたものがあつた。

(6) 暮らしの博物館 (がんこ平野郷屋敷の中にあつた。)

この博物館の中には、江戸時代に使われていたお皿やお椀、茶道で使うお茶のセットなどが江戸時代初期に建てられたお倉の中に飾られている。また、この屋敷は江戸時代初期の建築で、全てが木で作られており、また大きな門構えがあり、昔というのが一目で分かる。

(7) 町家博物館 (2008年2月閉館)

江戸時代後期に建てられた古い民家で、中庭がある。

(8) 郵便局博物館 (年に1回だけ開館)

この博物館では、明治時代に使われていた古切手や往復はがき (写真⑥)、さらに当時郵便物を配達する人が着ていたものなども全て展示してある (写真⑦)。



写真⑤



写真⑥



写真⑦

(9) 珈琲屋さん博物館

この博物館には、昭和初期に使われていた、ひげを生やした人のためのコーヒーカップや、コーヒーによって人にもたらされる効果や、コーヒーの歴史を書いた本もある。

(10) かたなの博物館

この博物館では、本物の刀を展示しているほか、本物の刀を実際に自分の手で持つことが出来る。かなり重い。

(11) 幽霊博物館 (8月の第4日曜日のみ開催)

この博物館では、歴史的に有名な人の亡霊の絵だけでなく、囲碁を打つ人の亡霊の絵なども置いてあった。



写真⑧ (年に一度しか見られない看板)

(12) わたの博物館 (大念仏寺内にある)

ここでは、わたの実から種を取り出して、残ったわたを糸につけて丈夫にするなどの作業が出来る。

(13) 矢立博物館

この博物館では、様々な種類の矢立 (矢立とは、昔の携帯用筆記用具で、万年筆の前身である) が置いてある。矢立は、見た目は小筆と似ているが小筆より書きやすい。

鎌倉時代に武家が使用していたのが始まりで、江戸時代には庶民の間でも広く使われていた。

(14) 鎮守の森博物館

この博物館は、杭全神社という僕がいつも初詣や夏祭りなどの時に行っている神社全体のことを指しており、特別な施設はない。

(15) 平野町ぐるみ博物館 ~藤岡家住宅~

この博物館は、年に1回のみ公開されており、毎年テーマを決めて出展している。

今年の出展は、江戸時代の年貢 (租税) 史料と当家菜種油製造販売に関する史料・はかり商売の史料である。

上質の和紙と良い墨を使っていたので、記録がきっちりと残っていたと思う。

(16) 平野映像資料館

ここでは、店主の松村さんが40数年にわたり記録した平野の風物や行事を映像と写真で紹介し、また、世界でも稀な活動幻灯機も展示している。

こちらの松村さんからは、町ぐるみ博物館ができるようになったきっかけなど、色々なことを教えていただいた。

2. 博物館誕生のきっかけ

南海電車の平野線が廃止されることになり、地域の人々と駅舎どのお別れ会を兼ねて、子供たちを招待して駅舎のお葬式がとり行われることになり、そしてその当日に電車マニアである歌舞伎役者の片岡仁左衛門丈という方が平野駅から発車する最後の南海電車に乗るということで、テレビ局の人々がたくさん取材にきていて、「遊び心で電車のお葬式をするのがとても面白い」ということで、一躍話題になり、平野郷が注目されるようになった。(平野郷とは、5400所帯で、人口が1万3000人の、平野区の一部のことを指す。)

このお別れ会がきっかけで、「平野の町づくりを考える会」という会の人々に、平野区の輝かしい歴史を知ってもらうために、「町ぐるみ博物館」が始まった。

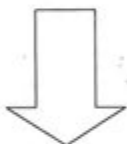
このことが大阪市に注目されて、平野郷HOPEゾーン事業（歴史的・文化的な雰囲気のある町並みなど、地域の人々の特性を活かしながら魅力ある居住地をつくるため、地域の人々と大阪市が協力して行う事業）から声がかかり、大阪府と国からも注目されるようになり、国からの補助金（10年間）がでるようになった。そして、この補助金を町家の保存に役立てている。



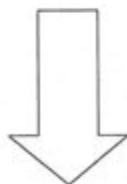
写真⑨（南海電車の平野駅の駅舎）

3. 平野区に古い町並みが多い理由

実際に聖徳太子がつくった建物（全興寺）なども残っている。これらの建物や資料が残っている理由は、平野区に焼夷弾が落とされた場所が、町家がたくさんある地域から遠く離れた地域だったので（大豆をいれていた倉庫の密集地帯に落ちた）、町家は全く被害を受けなかったからである。



博物館の数が増え、博物館自体が町家だったりし、また町家に住んでいる人たちも、町家の良さを知ってもらおうということで、町家の保存や、平野郷の歴史を残していく運動が行われている。



「祭りちょうちんの似合う町並みにするために」

①今までの古い建物を大切に、磨きをかける。

平野郷の昔の面影を今に伝える町家などの建物は、町の貴重な財産である。伝統のよさを大切にしながら、現代の生活に合わせて磨きをかけていくことにより、次の世代へと伝わっていく。



写真⑩（平野映像資料館）
（150年前＜江戸時代後期＞に建てられたと伝えられている）



写真⑪（町家博物館）
（江戸後期の茅葺屋根）

②これから建てる建物は、周囲の町並みになじませる。

町家が多い地域で新しく建物を建てる時は、伝統的な町並みのスケールを損なわないよう心がけることで、調和した町並みが維持されている。

③平野の財産である、昔ながらの場所や景観を残し、活かすように努める。

町家などの伝統的な建物の他にも、地藏堂、だんじり小屋、辻など、歴史や文化を伝える場所が豊富にある。

このような場所や景観を大切にすることで、平野らしい町並みが際立っている。



昔らしさ



町家の存在の重要性 (構造、建て方の工夫)



駐車場をむき出しにしたり、スチールシャッターなどを用いずに、板塀や木製格子戸などを隠すといった工夫



- ・平野を愛する心
- ・平野の町並みをたくさん知ってもらおうと思う親切心



案内所や看板がない (ガイドが住民)



ありのままの平野の町並み



町ぐるみ博物館 (町そのものが博物館)

平野区に博物館が多い理由は、あるがままの生活や自然など、地域全体を博物館に見立てて平野を愛する住民がガイドになっているからだと思う。



写真⑫の場所から、町ぐるみ博物館が生まれたと考えられる。



写真⑫南海平野駅の駅舎跡地
(現在は公園)

IV 残された課題

月に一度だけ開館する博物館がとても多く、中には幽霊博物館のように1年に1度の開館の博物館もいくつかあり、あまり訪問できなかった。また、1つ1つの博物館もとても奥が深く、じっくり訪問できなかったことが残念だと思う。

V 感想

今回の自由研究で、僕は様々な人に出会った。

その中でも、まつやさんの店主の松村さんや、町家博物館の店主の今野さんは、博物館の紹介のことよりも、本来僕が疑問に思っていた、博物館が出来るようになった理由を教えていただいたりして、とても僕の研究に携わってくれました。また、こちらがお礼を言った時でも、「こちらの遊びに付き合ってくれてありがとう。」というように、博物館を営むという大変なことを、楽しみながら遊び心でできるところがとてもすごいんだなあ、と思った。

そして、今度また博物館を訪れる機会があれば、昔の古い映像を見せてほしいと思う。

町家博物館の店主の方が、今学んでいる江戸時代の刑罰についても一度詳しく知りたいと思った。

VI 参考文献

- ・大阪市平野区役所著/出版 『AZ HIRANO』 2007年3月
- ・小林大祐著/平野郷HOPEゾーン協議会発行 『平野郷の町家』 2006年3月
- ・佐藤則子著/平野郷HOPEゾーン協議会発行
『平野郷HOPEゾーン協議会10周年記念誌』 2009年3月